

事業報告書（令和6年度）

事業名 岡山ユネスコ 30th プログラム

団体名 岡山ユネスコ協会

担当者名 井上 紘貴

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

① 平和の鐘を鳴らそう！in 長泉寺



終戦の日である 2024 年 8 月 15 日（木）に岡山市北区南方の長泉寺にて開催。一般来場者、会員、ボランティア中高生ボランティア、メディア関係者合わせて約 50 名が参加。「わたしの平和宣言」を全員で唱和した後、一人ひとりが平和を祈りながら鐘を鳴らし、その後は紺野美沙子さんの朗読劇「星は見ている～原爆でわが子を亡くした父母らの手記より～」の DVD を鑑賞し、その後は平和を語る座談会として参加者同士で感想をシェアした。

② 第 26 回「絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展」



2024 年 11 月 9 日（土）～17 日（日）にかけて、岡山県生涯学習センターにて実施。（施設休館日である 11 日（月）は除く。）岡山市内の小中学校に在籍する児童・生徒を対象に、夏休み期間中に自分たちの住む地域に点在する自然や風景、文化遺産、季節の行事などの「たからもの」を見つめた作品を募集。集まった 234 点の中から審査を経て入賞した作品 62 点を展示した。

最終日午後には優良賞、優秀賞、特別賞（日本ユネスコ協会連盟会長賞、岡山ユネスコ協会会長賞、奨励賞）を対象に表彰式も実施した。

③ SDGs パスポート事業



2024年8月6日（火）に“おかやま SDGs フェア”内にて、SDGs パスポート体験発表会を実施し、岡山市立操山中学校、及び岡山大学教育学部附属中学校の生徒たちに、実践発表していただいた。

具体的な内容として、岡山市立操山中学校の生徒たちより、ボランティア委員会で、点字ブロック記念碑を毎月清掃するとともに、学校から記念碑までの用水路に落ちているゴミも拾っているなどの活動報告があった。岡山大学教育学部附属中学校からは海ゴミ問題についての活動や、地方と都市部での医療格差が進む中、医師とAIとの連携、ゲノム情報を応用した病気の診断と予防、治療に革命的進歩がもたらされる医療の可能性について研究成果の報告があった。

また今年度は岡山市内22の小・中・高校で約5,100名の児童・生徒がSDGs パスポート活動に取り組み、そのうち千種小学校1名、上南中学校4名、御南中学校20名、合計25名が30ボランを達成したほか、上南中学校4名、城東中学校4名、御南中学校11名、操山中学校12名、後楽館高等学校1名、合計32名が15ボランを達成した。

④ 岡山でのユネスコ活動再開30周年記念～岡山でのユネスコ活動30年の歩みから文学による心豊かなまちづくりへ～

2024年11月10日（日）岡山芸術創造劇場ハレノワ小劇場で開催し、一般来場者、来賓、関係者含め約100名が参加。1950年に発足し一度休眠状態となっていた岡山ユネスコ協力を、1994年に岡山ユネスコ協会として活動再開して30年、そして2023年に岡山市が「ユネスコ創造都市ネットワーク（文学）」に加盟したことを受けて、岡山市文化振興課と主催で開催した。



2. ESD の視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

1) 平和の鐘を鳴らそう！ in 長泉寺にボランティアで参加した高校生より

- ・ 日本では第二次世界大戦以降、戦争は起きておらず、戦争の悲惨さや被害について学ぶには、実際に戦争を経験された方の言葉を受け取るしかなく、戦争とはどういうものなのかを知ることは、現代を生きる私たちの使命だと考えている。
- ・ 平和宣言の 1 文 1 文はとても短いものだったが、その 1 文 1 文には重みがあり、これまでの時代の人々が平和を作るために何ができるか考え抜いた結果という感じがした。

3) SDGs パスポート事業に参加した中学生の感想から

- ・ ボランティア活動は、地域の人と関わることができる一つのツールでもあると思った。
- ・ 自分が意識を変えるだけでも少し良くなるから、周りの人も巻き込んで行動したい。
- ・ 災害時の行動や AED の使い方など、学校生活では詳しく学べないことを学べたので、これからもボランティアを続けていきたい。

4) 岡山でのユネスコ活動再開 30 周年記念～岡山でのユネスコ活動 30 年の歩みから文学による心豊かなまちづくりへ～ 参加者の感想より

- ・ 参加者からは文学創造都市の目指すところが、ユネスコ活動の方向が合致していて、理解しやすかった、文学、言葉のもつ力が平和な世界を作っていくと強く思った。
- ・ 岡山市が文学によるまちづくりを進めていることを初めて知り、今まで知らなかった岡山の魅力を知ることができた。

② どのように学び合いを取り入れたか

- ・ 平和の鐘を鳴らそう！ in 長泉寺では“平和を語る座談会”と題して、参加者同士で DVD を見た感想を共有した。
- ・ SDGs パスポート体験発表会では発表した生徒同士での意見交換の場を設け、それぞれの発表や活動の中で良かった点を共有した。
- ・ 絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展の表彰式においては、受賞した児童に作

品を描く上で工夫した点、苦勞した点について発表・共有した。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

SDGs パスポート体験発表会では地域団体と連携しながら課題解決に向けて行動したり、地域課題の解決に根差した研究成果を発表しており、総合的な探求学習に結びついたものと考えられる。

絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展では、文化遺産や伝統芸能など自分たちの住む地域の良さを見つける観点から社会（主に歴史）、そしてそれらを絵画で表現する観点から図画工作及び美術につながると考えられる。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

1) 平和の鐘を鳴らそう！in 長泉寺

インターキッズ（NPO 法人こくさいこどもフォーラム岡山）主催の国際塾に参加している塾生から中高生 15 名がボランティアとして参加し、国際塾の講義で学んだイスラエル・パレスチナ問題とも関連して、平和について考える機会に結びついたと考えられる。

2) SDGs パスポート事業

SDGs パスポート体験発表会では、参加校の生徒たちが学校外に出て、地域団体と協働して地域の課題解決に向けて行動するためのきっかけづくりに結びついたと考えられる。

3) 絵で伝えよう！わたしの町のたからもの絵画展

応募総数自体は昨年度の 292 点から今年度は 234 点に減った。中学校の参加は昨年度は 7 校に対して、今年度は 3 校のみだったが、逆に小学校の応募については昨年度は 9 校に対して今年度は 16 校に増えた。

応募作品についても岡山城や岡山後楽園、瀬戸大橋といった岡山を代表する有名な歴史遺産のみならず、小中学校区に点在する歴史遺産、備中神楽や後楽園の茶摘みといった無形遺産を描いた作品や 2024 年パリオリンピックで金メダルを獲得した地元選手の活躍に着目した作品もあり、主催者にとっても見応えがあり、参加者一人ひとりが自分たちの住む地域の良いところを探した様子がうかがえた。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

2025 年は戦後 80 年の節目の年である一方、世界ではロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ問題など戦争が絶えず起こっており、ユネスコの存在意義が大きく問われている状況であることから、地元岡山で過去の教訓から平和について学ぶスタディツアーを計画している。

弊会のみならず全国のユネスコ協会において高齢化が進行している現状を踏まえ、次世代の担い手を育成すべく、ユネスコスクール加盟校、大学生との連携を強化したい。

(様式第 8 号)

・岡山市と主催した 30 周年記念のイベントを契機に、岡山ユネスコ協会では「文学による心豊かなまちづくり・人づくり」を新たな活動テーマに加え、次年度以降拡充させていきたい。